

誰もが暮らしやすくなるためのデザイン

国立特別支援教育総合研究所

主任研究員 久道佳代子

I. 日本におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン

東京オリンピック・パラリンピック大会を契機に、障害の有無にかかわらず、だれもが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現することを目指し、2017年に「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」が策定され、「心のバリアフリー」や「ユニバーサルデザインの街づくり」の推進が図られてきた。

II. 心のバリアフリー

1. 考え方

「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことである。「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは以下の 3 点である。

- (1) 障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。
- (2) 障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること。
- (3) 自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

2. 「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」

(1) 学校教育における取組

発達段階に応じて、切れ目ない「心のバリアフリー」教育を行っている。主に中学生を対象としたハンドブック、授業を行う際の解説や補助資料を掲載した教師用解説書がある。

(2) 企業等における「心のバリアフリー」の取組

様々な障害のある人が活躍しやすい環境づくりに向けて、経営者から現場の社員まで、一体となって「心のバリアフリー」に取り組むことが期待されている。内閣官房では、「心のバリアフリー」を学ぶアニメーション教材を作成している。集合研修プログラムの雛形もあり、企業や官公庁での研修等に活用されている。

ある企業では、「インクルーシブデザイン」を全社的に取り組んでいる。例えば、ワークショップにおいて障害のある方と行動を共にし、対話を重ねることで得た、さまざまな「気づき」を社会に提供したいこと、価値に活かしている。また、障害のある社員と共にアクセシビリティを推進する体制を構築し、持続的向上に取り組んでいる。

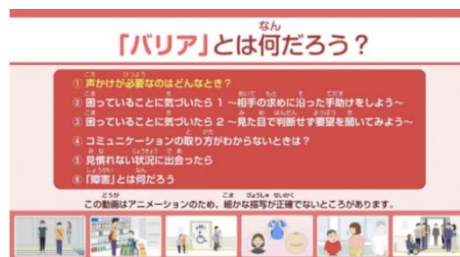


写真1、2¹⁾
アニメーション教材

(3) 地域・国民全体に向けた取組

各地域において、障害のある人もない人も共に参加できるスポーツ大会の開催や文化・教育の祭典を推進している。その際には、障害には様々な種類や程度があることについても理解が促進されるよう取り組むこと、実施に当たっては、障害のある人自身や障害者団体が主体的にかかわることが期待される。

ある自治体では、障害のある人もない人も、楽器経験のある人もない人も、みんなで一緒に音を奏でるインクルーシブな音楽活動を展開している。また、パンフレットやリーフレットを作成し、広報を行っている。

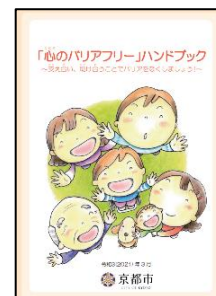


写真3²⁾
ハンドブック

Ⅲ. ユニバーサルデザインの街づくり

1. 考え方

交通分野、建築・施設分野のバリアフリー化（情報にかかわる内容を含む）に向けて、基準改正のほか、観光地や都市部等にある複合施設（大規模駅や地下街等）におけるバリアフリー推進、公共交通機関におけるバリアフリー化、ICTを活用した情報発信、トイレの利用環境改善等について取り組んでいる。

2. 具体的な取組

(1) 公共施設



写真4
男性保護者用
授乳スペース
(イベント会場にて)

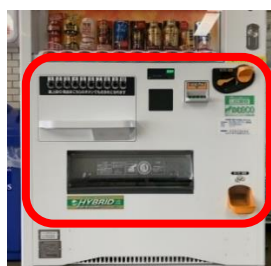


写真5 自動販売機
最上段の商品に対応した
補助ボタンや受け皿付き
コイン投入口がある。



写真6³⁾ 多機能トイレ
車椅子の回転用スペースが
確保され、ユニバーサルベ
ッドが設置されている。

(2) 駅や公共交通機関



写真7 ホームドアと点状ブロック

- ・ホームの端にドアを設置し、電車のドアと同時に開閉するようにして、線路への転落を防ぐ。
- ・点状ブロックは、線路への転落を避けるために、ホーム内側に内方線（線上の突起）をつけている。



写真8³⁾ 運転方向がわかりやすいエスカレーター

- ・上り、下りがわかりやすい表示となっている。

(3) 道路



写真9

障害者専用駐車スペース



写真10³⁾

バス停までの経路を誘導する線状・点状ブロック



写真11³⁾

建物出入口のスロープ

(4) 情報保障



写真12 情報表示装置

色使いをわかりやすく、明度差に配慮したカラーユニバーサルデザイン



写真13 案内表示（バス内）とコミュニケーション支援

- ・次の停留所が表示されている。
- ・乗務員が筆談具を携帯している。

(5) バリアフリーやサインのマーク

ベビーカーマーク 公共交通機関や公共施設などのエレベーター、鉄道やバスの車両スペースなどに表示され、安心して利用できる場所、設備を表している。 	聴覚障害者シンボルマーク 聴覚に障害のある人のための日本国内で使用されているマーク。また、「手話マーク」もあり、公共施設等の窓口に掲示し、手話で対応できることを示している。 
ハート・プラスマーク 身体の内部（内臓疾患）に疾患のある人のためのマーク。外見からわかりにくいいため、視覚的に示し、理解と協力を広げるために作成された。 	オストメイトマーク オストメイト（人工肛門・人工膀胱をつけた人）を示すマーク。オストメイト対応トイレに掲示されている。 

表 1 ²⁾ バリアフリーやサインのマーク

IV. 日常生活における共用品

障害のあるなし、年齢の高低、言語の違いなどに関わらず、共に使える製品やサービスのことを「共用品（アクセシブルデザイン）」「共用サービス」と言う。様々な人の日常生活における不便さや便利さの声から生まれ、これらの声をもとにみんなの話し合いを行い、不便さを便利さに変えている。



写真 14 触ってわかる工夫

- ・牛乳は他の紙パック飲料と区別のために、パック上部に切欠きが着いている。
- ・ビールは「おさけ」の点字をつけて誤飲防止をしている。

写真 15 使いやすい工夫

- ・鉛筆にグリップをつけ、にぎりやすくしている。
- ・紙がすべらないようにゴム製の下敷きを使用。
- ・下部にゴムがついており、定規がすべらない。
- ・数字部分が白黒表示で見えやすい。

■引用資料

- 1) (ウェブサイト) 「心のバリアフリー」を学ぶアニメーション教材
<http://psylab.hc.keio.ac.jp/tokyo2020/kokoro/> (2023 年 11 月 7 日閲覧)
- 2) (ウェブサイト) 心のバリアフリーハンドブック
<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000164/164199/HPkokoroBF.pdf>
(2023 年 11 月 7 日閲覧)
- 3) (ウェブサイト) 障害ってどこにあるの？こころと社会のバリアフリーハンドブック
<https://www.mlit.go.jp/common/001250069.pdf> (2023 年 11 月 7 日閲覧)